



CASA 連続市民講座

## 第15期 地球環境大学

## 脱！温暖化生活 第6回

「買い物編」エコラベルでお得に、スリムな買い物術

とき：2007年10月6日（土）13:30～16:30

場所：大阪産業創造館

## 報告 1

「CO<sub>2</sub> 簡単削減！賢い買い物術」

大関はるか さん（ひのでやエコライフ研究所）

昔に比べると桜の開花が早い、冬は霜柱などが見られないといった気候の変化や温暖化の現象が見られるようになってきた。実際に世界の陸上と海洋の平均気温は過去100年で約0.74℃上昇している。地球温暖化のひとつの原因とされている二酸化炭素の排出量は1990年比で13%増加しているが、家庭部門の排出量は37%も増加している（2005年）。

この家庭から排出される二酸化炭素の39%は電力である。

いつもと変わらない生活をしつつ、電力消費を抑えて環境に負荷のかからない方法の一つに、性能の良い製品を買うという方法がある。電球型蛍光灯は同じ明るさの白熱球に比べて、消費電力量が少なく6倍長持ちする。電気代は4分の1である。電気代のようにラベルの値段からは見えない価格があることを意識することが大事である。

部屋の暖房を考えると、こたつやホットカーペットのような自分のまわりだけを暖める部分暖房は、排出される二酸化炭素排出量が少なく済む。最近、エアコンは性能の向上が著しく電気ストーブなどと比べると排出量が少ない。

電化製品を買うときの判断基準として省エネ

ラベルがある。ラベルからは読み取れない、年間の電気代や省エネ達成率を、消費者が自分の目で比較することが出来る。

次に食べ物の面から考える。キュウリの年間購入割合をみると昔は夏場に購入することが多かったが、今は一年中消費されている。旬の時期ではない野菜はハウス栽培で作られている。これは露地栽培に比べ多くのエネルギーを必要とする。また、遠方から出荷している場合は輸送費もかかる。近郊で採れた、旬なものを購入するということは、価格や栄養の面だけでなく、環境にもいいのである。

デンマークや、スウェーデンではPETボトルの形はメーカーを超えて統一されている。それはリサイクルよりも環境にいい、リターナブルが行われているからである。日本のPETボトルよりも頑丈で繰り返し40回使える仕組みになっている。消費者がこのような他の国も現状を知って、考えて行動することで制度や風潮も変わっていくのではないか。

買い物をするときはMyバッグを持参したり、なるべくゴミのでない商品を買うことを心がけることができる。

また、賞味期限が過ぎてしまって開封せずに廃棄する手つかずのゴミが多い。自分の五感で確かめもせずに賞味期限の数字だけで管理していることも問題ではないか。

実践できるところから環境にいいことをはじ

めていけば、自分の生活がシンプルになったり、経済的にお得になるので、もう一步意識を高くし生活して欲しい。

## 報告 2

### 「英国流 “Tackle Climate Change”」

澤井幸子さん（自然エネルギー市民の会）

英国での再生可能なエネルギーの普及は6.38%である。北欧のスウェーデンでは29.63%と普及しているが、英国はEU平均も下回っているという状況である（2005年）。英国は電力供給の大部分を石炭や天然ガスに頼っており、環境面でEUの中では進んでいないのが実情である。

しかし、メディアや政治家は環境のことを多く取り上げる機会が多い。保守党の党首デビット・キャメロンが第一号の家庭用の風力発電機をつけたり、チャールズ皇太子はオーガニック食品のオーナーをして環境の面からも自身をアピールしている。英国の新聞インディペンデントはエコな活動をしている著名人をランキング発表したりと活発なメディアのキャンペーンが行われている。

NGOの活躍も活発である。英国政府がエネルギーの確保のために原発を作ろうとしたが、グリーンピースという団体が、再生可能エネルギーの利用による、原発に頼らないエネルギー政策への転換をめざすべきとして反対し勝訴した。エネルギーを大量に使う、物資の空輸を増やすことになる空港の拡張が反対されたりしている。

また、ものを売る側のスーパーなどのアピールが強い。マークス&スペンサーは約500億円の環境アクションプランを大々的に発表したり、各スーパーの取り組みが積極的である。センスベリーは、バッグブランドのアニヤ・ハンドマーチのショッピングバッグを発売して話題になった。様々なチャリティショップがメイン

ストリートにあり、気軽に訪れることができる。

市民は、異常気象が英国に悪影響をもたらしていることを8割の人が確信しているが、具体的に行動に移している人は半分以下であるという調査結果もある。生活の質を犠牲にしてまでも環境に配慮するのは嫌だというのが本音なのだろう。

市民の意識の変わってきた例として、ビーチリゾートに風車がたてられたり、楽しみながら自然を身近に感じられる広大な公園が作られたりしている。その他にも環境を前面に押し出したエコ住宅の建設の予定もある。

英国の市民はプラス思考にエコライフを実践しようという風潮があり、メディアを通して、エコは楽しく、カッコ良いものだと思われつつある。そのような意識が日本にもっと芽生えればいいのではないのだろうか。

## 質疑応答

Q 家にある家電製品がまだ使えるが、省エネのために新しいのを買いたいとも思う。その折り合いをつけるヒントはあるか？

A 物を大事にするということが大前提であるが、頻繁に使うエアコンや冷蔵庫が10年以上使用しているなら買い換えてもいい。買い換える以外にも自分のまわりの人に省エネ家電のことを伝えるという活動もできる。

Q トイレトペーパーで古紙100%のものはエネルギーがかかると聞いたが、再生紙ではないほうがいいのか？

A トイレトペーパーは最終利用の方法である。私は漂白剤や柔軟材などの化学部質が入っていない雑古紙100%のものを使っている。

Q 環境への意識は国民性の差から生じると思うがその差はどこからくるのか？

**A** デンマークと日本の差について述べると、160年の歴史がある「ホルケ・ホイ・スコレ」という民衆のための学校が関係していると思う。これは共同生活をして学ぶのであるが、ここでの経験が環境や福祉のベースになっていると思う。また、税金のシステムの違いもある。税金が高いがそのぶん教育や医療、交通に還元されている。

**Q** では私たちはどのような面から行動したらいいのか？

**A** 海外の事例を紹介したが、日本人の過去の生活にもヒントはあるので関心を持つこと。今すぐできる省エネのような活動から取り組みや、伝える側として周りを巻き込むこともできる。消費者は毎日の買い物が一票投じることに結びついているので、商品を選ぶことからでも行動できる。

**Q** イギリスでフードマイルは普及しているか？

**A** あまり進んでいないが、やることはいい事だという認識はある。飛行機税を高くすることにも賛否両論ある。イギリスにはお金に余裕のない移民が多いため全国的な取り組みというのはまだ難しい状況である。

**Q** イギリスでの風力発電のアセスメントの考え方の状況はどの程度か？

**A** 風車を立てるとき、時間をかけ、アセスメントのことをととも考

慮している。自然保護団体も加わって動物へも気を配っている。日本に比べ地形が穏やかで、人口も少ないので風車を立てやすく、地元の人が出資するケースがほとんどである。日本の場合は企業先導で立てることが多いため周辺住民とのトラブルが起きる。市民型の風車を進めていけばそのようなトラブルも減る。

**Q** プラスチックを分別するときに汚れ具合によって悩む。判断基準はなにか？また、工場ではどうやって処理をし、捨てているのか、自治体によっても違いがあるのか？

**A** 分別時に洗うことが苦に感じてしまったりは、続かないと思う。楽しく続けるために自分の中で境界を決めるべきだと思う。自治体に分類後の行方を聞いてもいいと思う。場所によって使われ方に差があるので、どの程度洗えばいいのかの目安になる。また、ダイオキシンの面からガス化熔融炉という焼却炉が増えた。これは高温で燃やすが、燃料となるゴミが分別によって減っては困るので分別をしないという流れがある。



## 「私の脱！温暖化生活」を考える

今年の地球環境大学の最終回ということもあり、今までの講義を参考にしつつ、参加者の方々全員で自分達の「脱！温暖化生活」を考えた。「環境に対して、こんなことを実践している。」「出来そうにないけど、こうなったらいいな。」など、思うことを付箋紙に書いて、今年の地球環境大学ごとのテーマとして定められていた、「食べ物編」「住宅（エネルギー）編」「交通編」「買い物編」「その他」に分類した。関心のある項目に分かれて更に意見を整理しつつ、「脱！温暖化生活」について意見を各テーマごとに発表していった。

### 「食べ物編」

My箸、水筒の持参で必要のない資源を使わないようにする。献立を考えるとときに冷蔵庫の中身を確認して必要なものだけを買う。そして、家族で食事してエネルギーを節約して、コミュニケーションをはかる。外食のときに残さないようにあらかじめ少なくしてもらったり、自給自足をすすめるといったような、実践していく意見が多かった。

### 「住宅（エネルギー）編」

大きく分けてエアコンと太陽光の意見が多かった。エアコンは必要最低限にするほかにも、温度設定を適切に行えばエネルギーの節約が出来る。太陽光発電はコストが下がり、さらに発電性能が良くなれば、自然エネルギーで生活しつつ、売電もできる理想的なエコライフになるのではないかと。そうなれば更に普及するのではという意見が出た。

### 「交通編」

車に乗らずに交通機関を使ったり、健康のためにも短距離の移動は自転車を活用したり、歩

こうという考えが大半であった。その他にもエコドライブの推奨、ハイブリッドカーの購入というものもあった。個人で行うものがほとんどであったが、道をキレイに舗装するという政策的な考えもあった。

### 「買い物編」

マイバッグの持参、レジ袋を断る。地産地消の食物や詰め替え商品を買うこと。粗大ゴミの有料化のように捨てにくい制度にしてリサイクルを進めるといった、すぐできる身近なことから、制度やライフスタイルの選び方でお店やまわりも変えていけるといった提言のようなものまで幅広い意見が出た。

### 「その他」

国への提言や理念的な事柄など多種多様なユニークな意見が多かった。

大規模開発の反対、少水力発電、地熱発電の普及などの要望から、自然の中で遊ぶ、環境政党へ票入れる、オフィスでの省エネの提言といった個人でやっていきたいこと、もったいないという考え方そのものの継承などがあった。

## 講座に参加して

全ての発表を終えて、身近なところから自分から実践していくような意見が多かった。

自分の生活の範囲での活動も重要であるが、社会を変えていく活動に広げていくには、会社や制度に対して意思表示していくことが大切である。しかし、押し付けるようではなく、楽しめたり、お得な要素があったり、活動がかっこいい真似したいと思えるようなものであることを知ってもらうことが大事である。やってみたら感じられることもたくさんあるので、今日の話をも自分の生活に取り入れていきましょう。

（持田直樹 CASA ボランティア）